

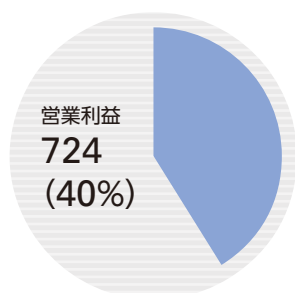
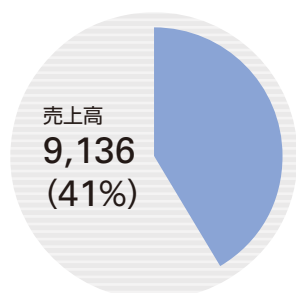
2017年度セグメント別活動状況

事業区分・セグメント		実績概況
基幹事業	繊維	国内では、自動車関連など産業用途の一部で需要が堅調に推移し、衣料用途でも店頭販売の動きなどに徐々に改善が見られる中で、衣料用・産業用それぞれの用途での拡販に加え、糸綿／テキスタイル／製品一貫型ビジネスの拡大を進めると共に、事業体質強化に注力。 海外では、東南アジアや韓国などの一部子会社の業績が低調だったが、自動車関連用途向けや衛生材料向けは総じて堅調に推移し、衣料用途でも一貫型ビジネスの拡大を進めた。
	機能化成品	樹脂事業は、自動車関連用途向けの出荷が国内を中心に概ね堅調に推移。自動車以外の用途でも、ABS樹脂やPPS樹脂などの拡販を進めた。フィルム事業は、リチウムイオン二次電池向けのバッテリーセパレータフィルムが需要の伸長を背景に出荷を拡大したことに加え、スマートフォン向けなどの電子部品用途が好調に推移。電子情報材料事業は、有機ELパネルの需要拡大に伴い関連材料の出荷が拡大。
戦略的拡大事業		
	炭素繊維複合材料	航空宇宙用途では、航空機の最終需要が堅調に推移している中、サプライチェーンでの在庫調整が完了し、出荷は回復基調となった。一般産業用途では、圧縮天然ガスタンクや風力発電翼などの環境・エネルギー関連向けを中心に、全体として需要が回復傾向となった。なお、原料価格の上昇や競合激化の影響を受けた。
重点育成・拡大事業	環境・エンジニアリング	水処理事業は、国内外で逆浸透膜などの需要が概ね堅調に推移。 国内子会社では、エンジニアリング子会社で産業機器やエレクトロニクス関連装置が好調に推移。
	ライフサイエンス	医薬事業は、経口そう痒症改善薬レミッチ®*が、剤形追加や効能追加の効果から出荷を拡大。一方、天然型インターフェロンベータ製剤フエロン®や経口プロスタサイクリン誘導体制剤ドルナー®の出荷は、代替治療薬や後発医薬品の影響を受けて低調に推移したほか、一部ライセンス収入も減少。 医療機器事業は、ダイアライザーの出荷が国内外で堅調に推移。

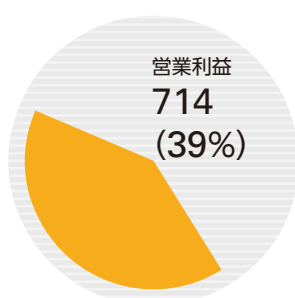
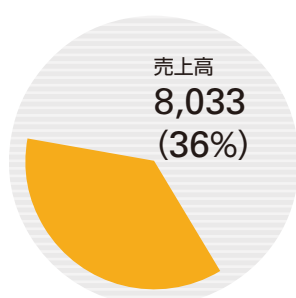
* レミッチ®は、鳥居薬品(株)の登録商標です

業績(億円) *各セグメントの()内の数字はセグメント別構成比です。

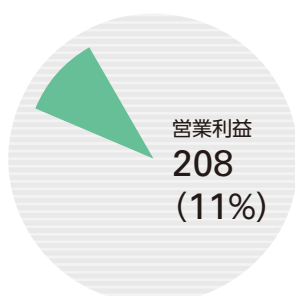
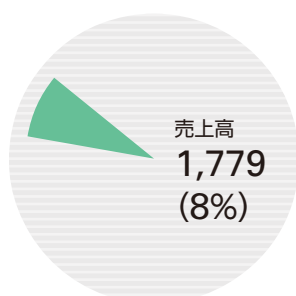
主要製品



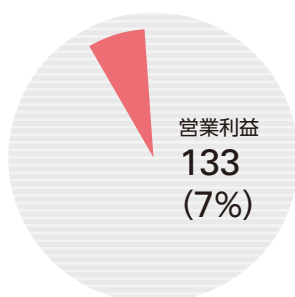
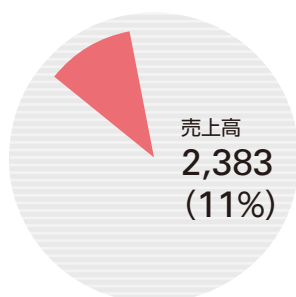
- ナイロン・ポリエステル・アクリル等の糸・綿・紡績糸及び織編物
- 不織布
- 人工皮革
- アパレル製品等



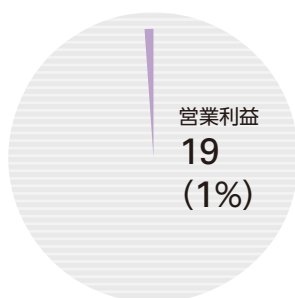
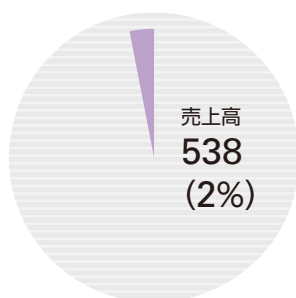
- ナイロン・ABS・PBT・PPS等の樹脂及び樹脂成形品
- ポリオレフィンフォーム
- ポリエステル・ポリエチレン・ポリプロピレン等のフィルム及びフィルム加工品
- 合成繊維・プラスチック原料
- ファインケミカル
- 電子情報材料
- 印写材料等



- 炭素繊維・同複合材料及び同成形品等



- 総合エンジニアリング
- マンション
- 産業機械類
- 情報関連機器
- 水処理用機能膜及び同機器
- 住宅・建築・土木材料等



- 医薬品
- 医療機器等

* 上記のセグメント以外に、その他の売上高179億円(1%)、営業利益29億円(2%)と、調整額の営業利益△262億円があります。営業利益のセグメント別構成比は調整額を除いて算出しています。

基幹事業 繊維



売上高

9,136 億円

営業利益

724 億円

営業利益率

7.9 %

ROA(営業利益/資産)

9.6 %

	2016	2017	増減率	2018(見通し) (2018.8.6現在)
売上高	8,561億円	9,136億円	+6.7%	10,000億円
営業利益	668億円	724億円	+8.5%	810億円
営業利益率	7.8%	7.9%		8.1%

基本方針

- 基幹事業としての収益体質のさらなる強化、成長分野・地域での事業拡大
- グローバルオペレーション深化による繊維事業の飛躍的成長への挑戦

収益機会とリスク

- 地球環境問題や資源・エネルギー問題の解決、健康・長寿に貢献する先端素材に対するニーズの高まり
- 世界的な景気と個人消費動向の変化
- 中国、新興国における所得水準上昇に伴う社会生活の高度化や規制の強化
- 原燃料価格動向

中期経営課題“AP-G 2019”達成に向けた事業戦略

- 国内事業基盤の維持・強化、産地の高次加工基盤の維持・強化、事業競争力のさらなる強化
- 海外の既存拠点・事業の事業基盤再強化、成長分野・地域での事業拡大
- 東レグループのグローバル事業運営強化、多彩な商品群／充実したサプライチェーン／グローバル展開の3軸を重層的に展開、拡大することで新たな事業領域を創出
→糸綿／テキスタイル／製品一貫型のグローバルSCM、戦略素材のバリューチェーンのさらなる強化、新たな事業領域拡張で繊維事業の飛躍的拡大を目指す

2018年度見通し

衣料用途では、「糸綿／テキスタイル／製品一貫型事業」の拡大など、ビジネスモデルの高度化に取り組むと共に、産業用途では、衛生材料用途や自動車関連用途などの成長分野で増設設備を活用して、成長地域での拡販を進める。

また、原料価格上昇に対しては、引き続き価格転嫁を進めると共に、コスト削減等により事業体質を強化し、基幹事業として期待される収益の拡大とグローバルな事業拡大を目指す。

機能化成品

	2016	2017	増減率	2018(見通し) (2018.8.6現在)
売上高	7,246億円	8,033億円	+10.9%	8,950億円
営業利益	618億円	714億円	+15.5%	790億円
営業利益率	8.5%	8.9%		8.8%

基本方針

- 成長分野での高付加価値品拡販とグローバル拠点のフル活用による事業拡大
- 事業構造改革による収益基盤強化

収益機会とリスク

- 地球環境問題や資源・エネルギー問題の解決に貢献する先端素材に対するニーズの高まり
- 電気自動車を含む自動車、液晶テレビ、スマートフォンなど最終製品の需要動向及び各種部品の技術動向の変化
- 原燃料価格の動向

中期経営課題“AP-G 2019”達成に向けた事業戦略

■樹脂・ケミカル事業

- PPS樹脂、海外コンパウンド、自動車材料などの拡大事業への経営資源投入、事業拡大推進

■フィルム事業

- リチウムイオン・バッテリーセパレータフィルムの設備投資、製品開発による拡販推進
- PETフィルムの生産体制再編、グローバルオペレーション活用による高付加価値化推進、拡販推進

■電子情報材料事業

- 有機EL関連材料の拡販、ポストディスプレイ分野における技術開発・事業化の加速

2018年度見通し

樹脂事業は、グローバルの自動車生産台数が安定して推移する中、軽量化、電動化といった樹脂需要の伸長に対応して、自動車用途の拡販を図るほか、ペフの増設設備を活用して拡販を進める。

フィルム事業は、PETフィルムはグローバルオペレーションを活用して、特に電子部品向けなど高付加価値品の拡販を図る。リチウムイオン二次電池向けバッテリーセパレータフィルムは、17年度に順次稼動を開始した増設設備の稼動率を高め、需要の拡大に対応して拡販を進める。

電子情報材料事業は、市場の成長に対応した有機EL関連材料等の拡販を図る。

なお、原料価格上昇に対しては、引き続き価格転嫁を進めると共に、トータルコストダウンに努める。

売上高

8,033 億円

営業利益

714 億円

営業利益率

8.9 %

ROA(営業利益/資産)

7.6 %

炭素繊維複合材料



売上高

1,779 億円

営業利益

208 億円

営業利益率

11.7 %

ROA(営業利益/資産)

4.5 %

	2016	2017	増減率	2018(見通し) (2018.8.6現在)
売上高	1,616億円	1,779億円	+10.1%	2,150億円
営業利益	240億円	208億円	-13.3%	150億円
営業利益率	14.8%	11.7%		7.0%

基本方針

- 世界ナンバーワンの炭素繊維メーカーとしてのさらなる事業拡大

収益機会とリスク

- 地球環境問題や資源・エネルギー問題の解決に貢献する先端素材に対するニーズの高まり
- 航空機、風力発電翼、圧縮天然ガスタンク、自動車などの最終製品の需要動向
- 炭素繊維のグローバルな需給バランス
- 原燃料価格・外国為替相場の動向

中期経営課題“AP-G 2019”達成に向けた事業戦略

■航空宇宙用途

- 既存のパートナーシップをさらに強化
- 新規プログラムの獲得を推進

■一般産業用途

- レギュラートウ、ラージトウをラインナップした総合力により圧倒的トップシェアの地位を強化
- ラージトウのコスト競争力を背景に、大手顧客との関係を強化し風力発電翼用途で圧倒的トップシェアの地位を強化
- 自動車用途の本格的な需要拡大に備え、サプライチェーンの拡充と中間基材・成形技術の開発を推進

2018年度見通し

- 航空宇宙用途は、航空機の最終需要が堅調に推移している中、2017年度にサプライチェーンでの在庫調整が完了したこともあり、炭素繊維複合材料の需要が拡大する見通し。
- 一般産業用途では、圧縮天然ガスタンクや風力発電翼などの環境・エネルギー関連向けを中心に、全体として需要が回復傾向にあり、拡販を推進する。2017年度4Qから順次稼働を開始しているラージトウの増設設備を活用し、需要が伸長している風力発電翼用途向けに拡販を進める。
- 原料価格上昇に対しては、価格転嫁を進めると共に、トータルコストダウンに努める。

重点育成・拡大事業

環境・エンジニアリング



売上高

2,383 億円

営業利益

133 億円

営業利益率

5.6 %

ROA(営業利益/資産)

5.2 %

	2016	2017	増減率	2018(見通し) (2018.8.6現在)
売上高	2,125億円	2,383億円	+12.1%	2,600億円
営業利益	117億円	133億円	+13.5%	160億円
営業利益率	5.5%	5.6%		6.2%

基本方針

- 水処理膜と設備設計力を軸に環境・エネルギー分野で事業拡大

収益機会とリスク

- 地球環境問題や資源・エネルギー問題の解決に貢献する先端素材とそれらを製造する機械・設備に対するニーズの高まり
- 水不足地域の政情不安
- 原油価格動向
- 顧客における設備投資の動向

中期経営課題“AP-G 2019”達成に向けた事業戦略

■水処理事業

- 膜事業の競争力強化、事業拡大
- RO膜の製品開発推進、コスト競争力強化
- UF膜の中国、米国での拡販
- 水処理システム・プラント事業の基盤強化

■エンジニアリング事業

- プラント事業、産業機器の拡大(環境エネルギー分野、ライフサイエンス分野)
- 成長領域における外部資源の活用
- コスト競争力強化
- 海外展開の加速

2018年度見通し

- 水処理事業では、RO膜は、海水・かん水淡水化による飲料用途や工業用純水等の産業用途に加え、下排水再利用分野にも拡販を図る。UF/MF膜は、上水用途や、下排水再利用や海水淡水化における前処理用途としても販売を進める。MBR膜は、インドや中南米などの新興国における排水再利用に向けて拡販を進める。
- エンジニアリング子会社では、プラント事業は、環境エネルギー分野、ライフサイエンス分野におけるプラント工事の拡大を進める。産業機器事業は、需要の増加が見込まれる電気自動車分野や半導体分野を中心に拡販を図る。



売上高

538 億円

営業利益

19 億円

営業利益率

3.6%

ROA(営業利益/資産)

2.4%

	2016	2017	増減率	2018(見通し) (2018.8.6現在)
売上高	542億円	538億円	-0.6%	600億円
営業利益	21億円	19億円	-9.6%	10億円
営業利益率	4.0%	3.6%		1.7%

基本方針

- 国内市場シェアの維持・拡大と海外展開の強化・加速
- 選択と集中による効率的な製品開発の推進

収益機会とリスク

- 医療の質向上、医療現場の負担軽減、健康、長寿に貢献する先端素材に対するニーズの高まり
- 日本政府の後発品使用促進策及び継続的な薬価・償還価格引き下げ
- 各国の法規制の動向

中期経営課題“AP-G 2019”達成に向けた事業戦略

■ 医薬事業

- 経口そう痒症改善薬レミッチ®*の国内シェア維持と海外展開
- 新たなプロセスによる次世代製品創出

■ 医療機器事業

- 透析機器事業製品の国内外での拡販
- 救急・集中治療及び心・血管領域製品の国内拡販と海外展開加速
- バイオツールの早期事業化

2018年度見通し

- 医薬事業では、後発品の出現による逆風はあるが、2017年6月に発売開始した経口そう痒症改善薬レミッチ®口腔内崩壊錠(OD錠)の優位性を訴求することで国内シェアを維持、併行して海外展開を加速する。将来の新薬開発については、「神経」、「腎・自己免疫」、「がん」を注力領域としてパイプラインを拡充していくと共に、次世代新薬を目指して「革新バイオ医薬」の研究を進める。
- 医療機器事業では、多様な透析医療ニーズに対して、東レが持つ中空糸技術をベースに開発した人工腎臓(ダイアライザー)に、透析装置及びその管理システムを合わせたワンストップサービスを提供することで、透析機器事業の国内外での事業拡大を図る。

医療材事業では、救急・集中治療(急性血液浄化)及び心・血管領域を重点領域として、既存製品の改良・適応拡大・海外展開加速による売上げ拡大に注力する。また、将来の事業拡大に備え、東レの強みである先端材料技術をベースとした新規医療機器の開発を推進する。

* レミッチ®は、鳥居薬品(株)の登録商標です